Top Message

会社とは、夢を創るものである

株式会社 HCS ホールディングス
取締役会長　宮本 公

HCSホールディングスの中核、自覚と誇りを持つ

株式会社日比谷コンピュータシステム（HCS）は、2020年10月16日に創立50周年という輝かしい日を迎えることができました。まずは永年にわたり、ご支援・ご尽力いただきましたお客様をはじめ、すべてのステークホルダーの皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。

私は、当社の前身となるリッカー株式会社に在籍し、当社設立の準備に関わりました。同社は家庭用ミシンの製造販売に特化した一事業戦略の先細りで経営破綻を招き、その惨状を体験し、無念の気持ちは今もって生涯忘れられません。何としても同じ想いを HCS 社員にはさせたくない一心で、事業の永続的な発展を図るため当社の経営基盤を盤石にすることに努めました。“3つの視点”で課題を簡明・的確に捉えて解決策を見出す経営手法 Target Three Plus One Plan「トライアングル経営」を提唱し、実践してまいりました。たとえば、当時の３つの主力事業は、ソフトウェア開発事業、著作権事業、情報処理受託事業でありましたが、市場の変革要請に基づき、ERP事業をプラス・ワン事業として捉え、これに経営資源を投入し、育成したのであります。その後、情報処理受託事業は陳腐化したため、このERP事業を当社の主力事業に組替え、新しい３つの主力事業で業績の向上に努めたという次第です。2016 年には特化した３つの事業が確立したところでHCSを順次３社に分社化し、より各社長がイノベーターとなって特化した Free な事業経営に専念できるようにホールディングス体制へ踏み切ったわけです。言わずもがな、HCS は特化した事業会社の生みの親であり、今後も HCS ホールディングスの中核となる事業会社なのです。社員の皆さんには、ぜひその自覚と自信、そして誇りを持っていただきたいと思います。今後も HCS は “百年の計” を目指し、他社には真似のできない50年にわたり蓄積した豊富な経営資源を駆使するとともに、自由闊達な独自の経営を実践し、HCS ホールディングスの継続した事業の発展拡大に寄与してほしいと切に願っています。

財産として人を活かし50年継続できたこと

HCS の一番の財産は「人」だと思っています。良い人材がいたからこそ、幾度の時代の転換期においてもお客様との信頼関係を深め、事業の発展に努めてこられたのです。私は当社の代表取締役社長として 4 代目を務めさせていただきましたが、思えば歴代の社長はイノベーターでした。リッカー株式会社の業務効率化促進のために超大型コンピュータを導入し、株式会社日比谷電算センターを設立した初代社長、2代目社長は突然カオスの状況から独立系企業として独自の経営を確立し、住所マスターをはじめとする多くの著作権事業を開発、今に継承されています。私は到底、イノベーターとは言い難い者ですが、それでも当社の存続拡大を図り、業界でも不動の地位を確立できたのは、すばらしい社員に恵まれたからです。皆さんには、HCS の社員で良かったという幸せな暮らしと、働きがいのある夢舞台をこれからも提供し続けていきたい。そして皆さんにはその舞台で思い切りFreeに演じてほしいと願っています。まさに夢のような話かもしれませんが、会社とは夢を創るものであると私は信じているからです。